

式辭

柔らかな春の日差しを浴びて桜のつぼみも
膨らみを増してきました。 本日、ここにPTA会
長の臼井真二様の御臨席を賜り、芦根学園第
一回前期課程修了式を挙行できることを心
より嬉しく思います。 さて前期課程を修了し
た二十四名の皆さん、おめでとうございます。

皆さんは小学校入学以来、六年間の学校生
活を立派にやり遂げて、ここまで来ました。

六年前、皆さんはお家の方に手を引かれ、今
では小さく感じるランドセルを背負い、小学
校に入学してきましたが、あの日から雨の日

も風の日も、暑さにも寒さにも負けず学校に通い、心も身体もたくましく成長しました。

特に最後の一年間は委員会や学校行事で下級生をリードして、前期課程最高学年としての責任を立派に果たしてくれました。その姿は篠根学園の誇りでした。

節目の時を迎えた皆さんに、今日は私の好きな詩についてお話したいと思います。皆さんは坂村真民と言う名前の詩人を知っているでしょうか。彼が書いた詩のひとつに「タンポポのよう」に」という詩があるので、「これからそれを読んでみたいと思います。

たんぽぽのように 坂村 真民

わたしはタンポポの根のよう
に
強くなりたいと思いました

タンポポは 踏みにじられても
食いちぎられても

泣きごとや弱音やぐちはいいません

却つてグングン根を

大地におろしてゆくのです

わたしはタンポポのよう
に
明るく生きたいと思いました

太陽の光をいっぱいに吸いつて
道べに咲いているこの野草の花を
じっとみていると

どんな辛いことがあっても
どんなに苦しいことがあっても
リンリンとした勇気が

体の中にあるのです

わたしはタンポポの種のように
どんな遠い処へも飛んでいて
その花ことばのように
幸せをまき散らしたいのです

この花の心をわたしの願いとして
一筋に生きてゆきたいのです

皆さんはこれまでにいろいろな事に挑戦し、

数多くの困難を乗り越えてきたと思います。

しかし、時にはうまくいかずに悩んだり、立ち止まつたりしたこともあつたことでしょう。これから的人生においても、自分がしたいことをすべて成功するとは限りません。一生懸命やつてもうまくいかない事もあるでしょう。悔しくて涙するときもあるでしょう。

大事なことは、その時に、誰かのせいにしたり、何かのせいにしたりしないことです。

まだまだ自分の努力が足りないのだ、うまくいかないのは自分の責任なのだと考えて、前を向いて再び歩み出すことが大切です。皆さんには失敗にくじけることなく、周りの人へ

の優しさを忘れずに、自分の夢を追いかけ
いつてほしいと思います。

最後になりましたが、保護者の皆様、本日
は誠におめでとうございます。お子様が誕生
した日から過ぎてきた十二年間を振り返り、
感慨もひとしおのことと思います。どうぞこ
れからもお子様の応援者となつて、その歩み
を支えてあげてください。

二十四名の皆さん、春はもうすぐそこに来
ています。失敗を恐れず、新たな世界へ足を
踏み入れて下さい。皆さんガタンポポの種と

なつて、どんな時にも前を向き、力強く歩んでいくことを心から願っています。

令和六年三月二十二日

那須塩原市立苇根学園校長 山本幸子